

学位論文抄録

進行性核上性麻痺の精神症状・行動障害
(Psychiatric and behavioral symptoms in progressive supranuclear palsy)

矢田 部 裕 介

熊本大学大学院医学教育部博士課程臨床医科学専攻神経精神科学

指導教員

池田 学 教授
熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻神経精神科学

学位論文抄録

[目的]

進行性核上性麻痺 (PSP) は核上性眼球運動障害、姿勢不安定、無動、その他のパーキンソニズムを特徴とする神経変性疾患である。PSP は前頭-皮質下回路の損傷の結果、二次的に起こる前頭葉機能障害によりしばしば多彩な認知症症状を呈する。一方、前頭側頭型認知症 (FTD) でも前頭葉機能障害による特徴的な症候がみられ、PSP と FTD は臨床症候のみならず、病理学的背景にもオーバーラップがみられる。しかし、両疾患の精神症状・行動障害を直接比較した研究や、FTD に特徴的とされる常同行動や反社会的行動を PSP で調べた研究はない。本研究では、PSP の精神症状・行動障害を系統的かつ包括的に調査し、FTD と比較することを目的とした。

[方法]

対象は Kumamoto University Dementia Follow-up Registry から選択された PSP 患者 ($N = 10$ 、男性 7 名、女性 3 名、平均年齢 69.0 歳、平均 MMSE スコア 21.4 点) と FTD 患者 ($N = 13$ 、男性 7 名、女性 6 名、平均年齢 66.5 歳、平均 MMSE スコア 18.3 点) の連続例である。精神症状・行動障害は Neuropsychiatric Inventory (NPI)、Stereotypy Rating Inventory (SRI)、特定の反社会的行動の有無を調べるためのチェックリストを用いて評価された。さらに、各群の主要脳部位における血流低下の有無を SPECT 画像の視覚的評価にて判定した。

[結果]

NPI 合計スコアおよび NPI 下位項目スコアは二群間で有意差を認めず、アパシー、異常行動、脱抑制のスコアが高く、妄想、幻覚、うつのスコアが低いという極めて類似したパターンを示した。一方、SRI 合計スコア ($P = 0.027$)、食行動スコア ($P = 0.041$) においては PSP 群が FTD 群より有意に低い結果であった。また、PSP 群の 50%、FTD 群の 46% に少なくともひとつ以上の反社会的行動がみられ、このうち、不適切な性行動が PSP 群に多い傾向がみられた ($P = 0.068$)。主要脳部位における血流低下の頻度としては、両群とも前頭葉の血流低下が多く、PSP 群の 90%、FTD 群の 100% にみられた。

[考察]

認知症外来における PSP の精神症状・行動障害が FTD と極めて似通っていることが示され、両疾患に共通する症候は前頭葉血流低下と関連していると考えられた。一方、常同行動は PSP で有意に軽度であり、不適切な性行動の多さとともに、PSP と FTD の鑑別に有用な症候である可能性が示唆された。

[結論]

PSP はパーキンソン関連疾患という側面のみならず、広範な精神症状・行動障害を呈する疾患でもあることを念頭に置き、治療やケアがなされるべきと考えられた。